

## 平成27年予算決算委員会第3分科会会議録

1. 招集年月日 平成27年9月24日
2. 招集の場所 可児市役所5階第1委員会室
3. 開 会 平成27年9月24日 午前10時52分 分科会長宣告

### 4. 審査事項

#### 協議事項

1. 予算決算委員会提言の取りまとめについて  
いじめ防止教育推進について  
(スクールソーシャルワーカー増員等も含む)  
地域福祉計画に基づいての事業推進について  
各種成人健診について  
美濃金山城跡整備事業の充実について  
(兼山地区のまちづくりを含む)
2. その他

### 5. 出席委員 (5名)

分科会長	板津博之	分科会員	亀谷光
分科会員	富田牧子	分科会員	出口忠雄
分科会員	田原理香		

### 6. 欠席委員 なし

### 7. その他出席した者

予算決算委員長	川上文浩	予算決算副委員長	天羽良明
---------	------	----------	------

### 8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局 係 長	小池祐功	議会事務局 書記	村田陽子
--------------	------	-------------	------

分科会長（板津博之君） それでは皆さんおそろいようですので、これより予算決算委員会第3分科会を開催します。

認定第1号から認定第15号までの平成26年度各会計決算認定審査の結果を踏まえて、平成26年度の予算執行の反省を平成28年度当初予算編成に生かすよう、提言を行っていきたいと思います。

9月15日の予算決算委員会において、委員からの発言のありました内容をもとに、本日、分科会員の皆様からの教育福祉委員会所管についての御意見をいただき、まとめていきたいと思います。

9月15日の予算決算委員会において、出された意見は4つありました。

1つ目が、いじめ防止教育推進について。2つ目として、地域福祉計画に基づいての事業推進について。3つ目が、各種成人健診について。4つ目が、美濃金山城跡整備事業の充実について。これらを精査した結果、分科会長案として、3つの提言案を作成しておきましたので、皆さんの御意見を伺いたいと思います。

ちなみに、田原委員から出された地域福祉計画に基づいての事業推進についてということですが、大変テーマとしては重要なテーマだと思うんですけども、この予算決算委員会で提言とするには、また若干向いてないのかなとか、ふさわしくないとか、例えば一般質問、それから委員会の今後の視察のテーマ、そういった別の方法で取り上げるという形にさせていただきたいということで、今回ちょっと外させていただきましたので、田原委員、この場にお見えになられますので、御了承いただきたいというふうに思います。

それでは、自由討議を行います。御意見のある方は挙手の上、マイクのスイッチを入れて発言してください。

分科会員（出口忠雄君） 私のほうから3つの提言案のところについて、2番目の美濃金山城跡についてなんですけど、ここは国の史跡の指定を受けたこの城跡を生かし、兼山地区の活性化を図ることとなっているんですけど、これは、多分城跡を生かすということは、観光資源的な捉え方になってくるんじゃないかと思うんですけど、さらにもうちょっと踏み込んで、自分たちのほうからもこういうふうにしたらどうかとか、例えば可児市全体の、あるいは可児郡の全体を見た観光ルート、その中の一つにこれを生かせるような、そういう観光的なところからの観点で活用したらどうかと。以上です。

分科会員（亀谷 光君） 恐らくこの物件については、経済関係のほうと我々の教育とまたがっているところですね。どちらが大事だという選択じゃなくて、私は両方必要だと思うんです。まず1つは、これは金山城が国の史跡になったことで、文部科学省が子供たちに生きた歴史の教科書がそのままあるんだという歴史教育のお手本になるということがちょっと文言が入っているんですね。そうすると、そういったことで学校の先生たちが、あの時代、いわゆる秀吉、信長の時代にどうであったかということの史跡が可児にあるということやね。そういった意味では、教育関係では大きなウエートを占めていると思うんです。それはそれ

として、それからさっき言った地域再生のため、まちづくりといったらおかしいけど、観光資源としても重要な史跡だと思うんです。ですから、僕は両方をここで手がけたらいいかなあと思うんです。我々のほうの切り口は切り口で議論したほうがいいかなと、僕はそんなふうに思うんです。一時期僕もちょっとどうかなと思ったんだけれども。

これもちょっと話が余談になっちゃうんですけど、今度10月に全国の山城サミットが滋賀県の米原であるんです。それを、実は可児市もお城がたくさんある関係で、それこそ3年、4年先に可児市で行おうじゃないかという機運があるんです。今度10月4日に金山城についての講演があるんですけど、この折に両先生が見えて、もちろん真ん中には落語家が来るんですけども、かなりのウエートを占めている講演なんです。だから、こういったことを含めると、観光のみにとどまらず、教育という大きなお手本があると。僕らも小学校のときに、江戸時代、戦国時代というものはなかなか認識がなかったんですけど、こんなところにいい石垣の積み方の本があるということは、非常に可児市にとってもいいことだと思いますので、教育福祉委員会でこれもとりたててしたほうがいいかなと僕は思います。2本立てですけども、そんなふうに思っています。

とりあえずそれだけで。

予算決算委員長（川上文浩君） 自由討議の途中、済みません。

平成26年の事業に対する提言ということで、平成25年9月定例会の決算審査を経て、歴史文化遺産への取り組みについて、国宝卯花塙のふるさとである牟田洞古窯跡を含む大萱古窯跡群や国指定を受けた美濃金山城跡などの歴史的文化遗产を可児市のシンボルとして、観光、教育、健康、地域のまちづくり等さまざまな分野で活用できるランドデザインの策定をすることということで出しています。今、平成27年度を迎えております。平成27年度が、今観光ランドデザインを策定途中ということでありまして、もし提言でまとめられるなら、これを超えた提言としていただかないと、既に同じことが出ておりますので、そのところをちょっと勘案して御議論いただければというふうに思います。

分科会員（田原理香君） 先日、兼山の方とお話をしたときに、地域の中で、実は蔵があって、その蔵を残したいんだと、そういったさっき町並み、まちづくりという、ここにありまですけども、この町並みをもうちょっと歴史とつなげたところで生かすというところでの、地域の方々が何を残したいか、何を次世代に伝えたいかというところのまちづくり、町並みもあわせて考えることはいかがでしょう。

分科会員（富田牧子君） 先ほど、委員長が言われましたよね。予算決算委員長が言われましたので、私も毎年毎年同じような提言をしているなど。だんだん進化はしているというふうには思うんですけど、それをこういった提言をと言われると、なかなかそれはちょっと大変な話で、それで今まちづくりの話も出てきますと、ちょっとここでは手に負えないというか、私は、これはあれだったら、隣の委員会にお任せするとかしたらどうかなというふうに思うんですけど。

分科会長（板津博之君） 一応、先ほど川上委員長のほうからも紹介ありましたけれども、

平成26年度事業に対する提言ということで、平成25年の9月議会、このときの予算決算委員会の中で歴史文化遺産への取り組みについてということで提言をしております。

改めて私のほうで読ませていただきますと、国宝卯花塙のふるさとである牟田洞古用跡を含む大萱古窯跡群や国指定を受けた美濃金山城跡などの歴史的な文化遺産を可児市のシンボルとして、観光、教育、健康、地域のまちづくり等さまざまな分野で活用できるランドデザインの策定をすることという提言をしておるといところで、これを超えるようなものとなると、確かに難しいのではないかというふうに思うんですけども、一応、皆さんのお手元に今回の提言案ということで3つ配付させていただいたんですけども、2番目の美濃金山城跡についてということで、国史跡の指定を受けた美濃金山城跡を生かし、さらに兼山地区の活性化を図ること。また、小・中学校への出前講座や副読本の作成など、子供たちへの周知活動を推進していくことという案文をつくらせていただいたんですけども、これではちょっと、この平成25年9月に提言したものにはちょっと劣るかなというのが。

予算決算委員長（川上文浩君） 劣るとか超えるといった意味ではあれですけど、今現在進んでいるということで、先日も18日の第2分科会でも、美濃金山城跡整備事業とまちづくりについて、兼山町のまちづくりの観点を取り入れるよう、委員長報告に付してほしいとの要望が出ておりました、それにあわせる形で、この第3分科会でも委員長報告の中に付して表現するという方向でお考えいただくと、足並みがそろうのかなあというふうに思いますけれども。

分科会長（板津博之君） 川上委員長からそのように、私も実は、ほかの分科会を傍聴しておいて、今忘れておりましたけれども、ほかの第1分科会、第2分科会でもこの話は取り上げられておりました、確かに提言の案文にするというのは難しいかもしれないですけども、予算決算委員長の委員長報告の中に盛り込んでいただくということで、ほかの分科会でも話がありました。当分科会としても、この件についてはそういった形で委員長報告に盛り込んでいただくということでいかがでしょうか。

じゃあ、それではそのようにさせていただきますので、この美濃金山城跡については委員長報告に入れていただくということで、よろしく願いをいたします。

じゃあ、ほかの2点につきまして御意見をいただきたいと思いますが。

分科会員（富田牧子君） 3番も、自分で言ったことでなんですけど、かわりばえがしないような提言なので、これはやめて、1番だけ提言にしたらどうでしょうか。

分科会長（板津博之君） いかがでしょうか。

ちなみに、私も事前にこの成人各種健康診査事業については、健康増進課長に確認をしたんですけども、確かに前回の提言に入れたときは周知の仕方がちょっと不手際があったということで、それに対しての提言になっておったかと思えますけれども、受診率のほうも順調にというか、20%という目標値というのは設定するという話もあったんですけど、それに向けて担当課もまたやっていくということで、予算決算委員会の中でも答弁がありましたので、これにつきましては、今回ちょっと割愛させていただくということでいかがでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

じゃあ、そのようにさせていただきます。

では、残りしました1点、いじめ防止教育推進についてということで、案文をつくりましたので、ちょっとこの場で、皆さんお手元にあるかと思えますけれども朗読をさせていただきますと思います。

学校生活におけるサポート体制の充実について。

今年度、モデル的に行い、一定の効果を得たいじめ防止教育プログラムを評価・検証した上で、その取り組みをさらに拡大し、推進していくこと。また、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、スクールサポーターの増員等を含め、さまざまな角度から子供の学校生活へのサポート体制を充実すること。

以上でございますけれども、皆さんのお手元に、当初、これはスクールソーシャルワーカーの話が主体となっておったかと思えますけれども、改めて、今のこの横文字、私も余りこれはいかがなものかと思っているんですけど、スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーとスクールサポーターというこの3つの役職というか、役の方が見えまして、念のため、参考資料として皆さんのお手元に学校教育課長から資料をいただいております。

平成27年度可児市スクールソーシャルワーカーの状況といたしましては、蘇南中校区、それから中部中校区で3名ということですかね、ほかにスーパーバイザーというリーダー格の方がお見えになれるそうです。これについては全て市費でやっておられるということです。

裏面に行きますと、ほかのスクールカウンセラー、これは県費で4人採用されておまして、おのおの回数等も書いてあります。

あと、その次の3枚目のほうですけれども、スクールサポーター、これは市費で採用しておまして、それぞれの小学校に配置をしておると、トータルで58名お見えになるということです。

最後、裏面のほうですけれども、通訳サポーターと通訳支援員、これもスクールサポーターというくくりになるそうですけれども、通訳と通訳支援員の方が市費で12名とプラス1名ということで、それぞれポルトガル語、フィリピン語ということで配置をされておるそうです。

このような状況で、細かくそれぞれどうなっておるかということをお問いただしているとまた時間がかかってしまうんですけども、一応、スクールソーシャルワーカーに限らず、ほかのスクールカウンセラー、スクールサポーターについても必要であれば、効果があれば増員ということもしてもらったほうがいいんじゃないかということで、このような提言とさせていただきます。

分科会員（田原理香君） やはり学校生活を一番知っていらっしゃるの、現場の先生方だと思うんですね。特に、ここの中で、やっぱり学校とか先生とか現場とかわかりませんが、連携をとってとか、その声を大事にしながらとか、そういったことを入れて、あくまでもこちら側で入れたほうがいいとかじゃなくて、やっぱり先生方の声を聞きながら、それぞれの

学校によってもやっぱり実情とかが違うので、その辺をしっかりと連携を強化して、こういう体制をとっていただきたいというところで、ちょっと一緒に入れていただけるといいなあと  
思います。

分科会長（板津博之君） 具体的な文言で言うと。

分科会員（田原理香君） 増員等を含めの後に、学校と連携をとりながらとか、評価してと  
か、何かそんな……。

分科会長（板津博之君） ちょっと待ってください。

そうしたら、暫時休憩とします。

休憩 午前11時10分

再開 午前11時16分

分科会長（板津博之君） じゃあ、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

第3分科会からの提言案としては、学校生活におけるサポート体制の充実についてという  
ことで、この1点のみということにさせていただきたいと思います。

それでは、朗読をもってかえさせていただきたいと思います。

学校生活におけるサポート体制の充実について。

今年度、モデル的に行い、一定の効果を得たいじめ防止教育プログラムを評価・検証した  
上で、その取り組みをさらに拡大し、推進していくこと。また、スクールソーシャルワーカ  
ー、スクールカウンセラー、スクールサポーターの増員等も含め、さまざまな角度から子供  
の学校生活へのサポート体制を充実すること。以上です。

分科会員（富田牧子君） 今年度ではなくて、平成26年度の決算をやってということですか  
ら、前年度も今年度もやっているけど、前年度と入れないとおかしいんじゃない、今年度で  
は。

分科会長（板津博之君） 今、富田委員のほうから今年度ではなく、平成26年度としたほう  
がいいのではないかという御意見がありましたけれども、よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

じゃあ、平成26年度に変えさせていただきます。

ほかに文言のところ御意見ございませんでしょうか。

暫時休憩とします。

休憩 午前11時18分

再開 午前11時19分

分科会長（板津博之君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

それでは、再度改めまして、第3分科会からの提言案としてまとめたものを私のほうから  
朗読をさせていただきます。

学校生活におけるサポート体制の充実について。

平成26年度、モデル的に行い、一定の効果を得たいじめ防止教育プログラムを評価・検証した上で、その取り組みをさらに拡大し、推進していくこと。また、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、スクールサポーターの増員等も含め、さまざまな角度から子供の学校生活へのサポート体制を充実すること。

以上でございますが、ただし事業シートとの精査をした上で再度精査をしまして、あと担当課との検証もさせてもらった上で、このいじめ防止教育プログラムを評価・検証した上で、以降の文、以降というか、それも含めた文章を私、分科会長に一任して、変更については一任していただくということで、皆さんよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

それでは、このとおり決定をしまして、9月28日の予算決算委員会において報告することに御異議ございませんか。

〔「はい」の声あり〕

ありがとうございます。

本日はこれにて散会といたします。大変お疲れさまでございました。

閉会 午前11時19分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成27年9月24日

可児市予算決算委員会第3分科会長